

はなびらは、なんまいかな？

【学年・教科】1学年・生活科
【単元名】ぐんぐんのびろ

観察の対象をしぼる

生活科の学習では、児童が身近な自然事象に関心を持ち、自ら調べようとする意欲を高めていくことが大切です。ワークシートでは、「花を見てみよう！」ではなく、「花びらは、何枚かな？」という言葉に児童に投げかけています。観察の対象を「花びら」にしぼることによって、児童は花の形、色、大きさなど、様々な相違点や共通点を見つけていきます。身近な植物（花）に対する関心が高まることでしょう。

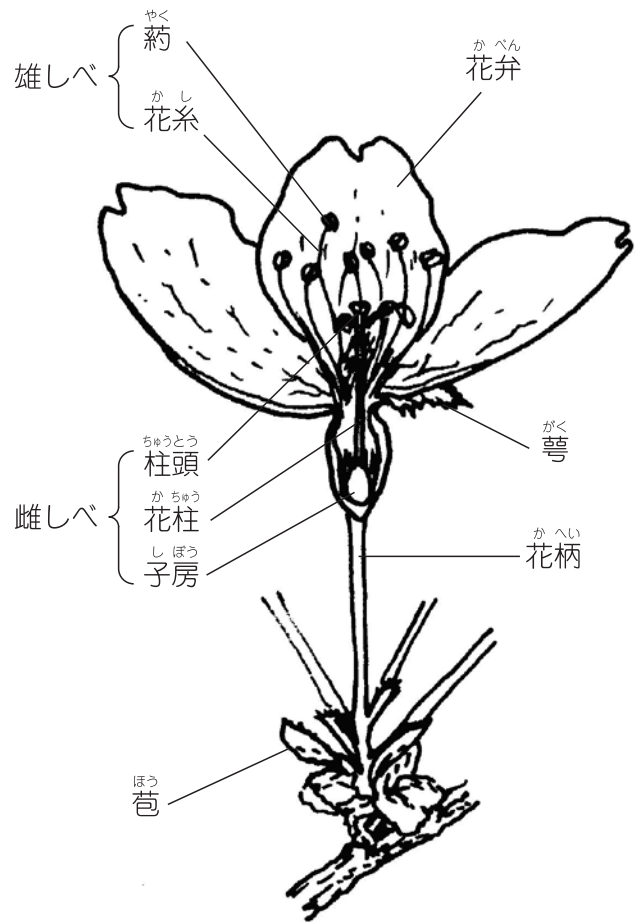


図1 花のつくり

夏の花の例

はなびらは、なんまいかな？

くわしくみよう。ケッチしよう。なまえは？

4まい



メマツヨイグサ (マツヨイグサ)
薄暗くなってから花が開く。江戸末期以降に日本に入る。月見草と呼ばれている。
【撮影】せら夢公園入口付近。



セイヨウアジサイ (アジサイ)
枝先に装飾花が多数球状に集まって付く。日本に古くからあるアジサイが、ヨーロッパにわたって品種改良され、戦後、逆輸入された。

5まい



オシロイバナ
白粉花と書く。花が夕方咲くので、ユウゲショウ(夕化粧)の名もある。果実は球形で黒く熟し、なかには白粉状の胚乳がある。



ニチニチソウ
日光を好み、暑さと乾燥に強い。一つ一つの花の命は短い。新しい花が次々咲く。多年草だが、日本では冬越しできないため、1年草として植える。



イモカタバミ (カタバミ)
カタバミ科。本州の中部以南に帰化。夕方になると小葉が開いて、一方が欠けたように見えることから、カタバミという名が付いたといわれている。
【撮影】せら夢公園内。



キキョウ
秋の七草の一つであるアサガオは、キキョウのことといわれている。野生のものは全国的に少なくなっているが、世羅台地では今でも見られる。
【撮影】せら夢公園入口付近。

花びらの数え方

花は、花弁、萼、雄しべ、雌しべなどからなります(図1)。花びらとは、花弁の通称です。しかし、ハナミズキ(春の花)、アジサイ(夏の花)などのように、変形した萼が花弁に似た形や色になっている場合もあります。花弁と変形した萼との区別は難しく、注意が必要です。ワークシートでは、変形した萼も含めて、花びらとして扱うこととします。また、花には離弁花と合弁花があります。離弁花は花弁がそれぞれ離れているもので、合弁花は花弁が合着しているものです。合弁花の中には花弁に切れ込みがあり、離弁花のように見えるものがあります(上の写真のオシロイバナ、ニチニチソウ、キキョウ、ユウスゲ、コオニユリ)。ワークシートでは、分かれているように見えるものの1枚を、花びらとして数えることとします。

活動のねらい

- 花びらの枚数を数えることを通して、その形、色、大きさなどの相違点や共通点に気付くとともに、比べる力を身につける。
- 植物(花)に対する関心を高める。

花の形

花の形には、漏斗型、鐘型、壺型、高杯型、唇型、蝶型などがあります(図2)。児童が、様々な形があることに気付き、それぞれの形に名前を付けたり、その形を別のものに例えたりするようになると、学習に対する意欲は高まります。例えば、ヒルガオはラッパ形、カラスノエンドウはニワトリのとさかに似ている、などというように。

6まい



ユウスゲ
ユリ科。花は夕方から開き初め、真夜中に満開になり、朝日が昇る頃にはしぼみ始める。畦やため池の土手に生える。
【撮影】せら夢公園内。



コオニユリ
鱗茎(球根)は食用となる。湿地の周辺や湿った草地に生える。
【撮影】せら夢公園内。

ほかになんまいのはながありましたか？ ケッチしよう。

3まい



ムラサキツクサ
花は早朝に開いて、午後にはしぼむ。北アメリカ原産。株分けによって広まり、野生化しているものもある。

10まい



トケイソウ
花の形を時計の文字盤に見立てて、時計草と呼ばれる。ブラジル原産のつる性の多年草。花弁と萼は白または淡紅色。青紫色の糸状のものは副萼。

きづいたことやわかったことをかこう。

【評価の観点】子どもの観察の視点(形、色、大きさ)に注し、気付いたことやわかったことの広がりや深まりを評価する。

形	色	大きさ
花びらの形 ○丸い・とがった ○分かれている・分かれていない	花びらの色 ○赤、青、黄、白など 花びらの濃淡 ○濃い・薄い ○鮮やか・鮮やかでない	○大きい・小さい
花の形 ○漏斗型・鐘型・壺型・高杯型・唇型・蝶型など	花びらの模様 ○縞、斑点など	

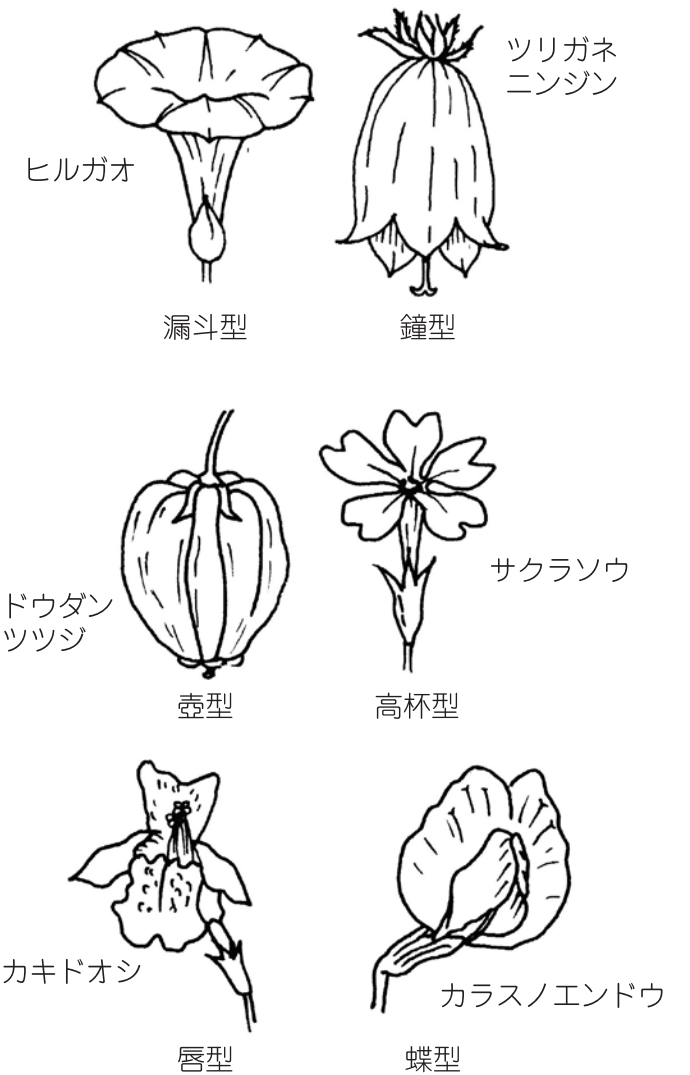


図2 花の形

春の花の例



4枚 オオイヌノフグリ



5枚 サクラソウ



6枚 スイセン